

—いのち、くらし、平和が大事！—

日本共産党京都市議員



山本 陽子

活動ニュース



VOL.63
2020年10月18日号

〈連絡先〉
日本共産党
山科区生活相談所
山科区西野大手先 8-8
☎ 595-8342

9月市会、 補正予算の討論に 立ちました！



市が提案する543億円の補正予算は、新型コロナウイルス感染症対策として必要なものであり、賛成いたしました。もっとも、543億円のうち大半の500億円が融資の預託金であり、残る43億円が秋冬に向けての感染拡大に対応する準備や、厳しい経済への対応です。これはあまりにも寂しい内容です。

国からの臨時交付金が枯渇する事態に至りましたが、そもそも国においては、7月以降、国会が開かれず、予算措置を講じてこなかった政府の責任は重大です。国に対して一刻も早く10兆円の予備費を活用して、臨時交付金の追加の措置を講ぜよ、と強い態度を示すとともに、先んじて京都市として抜

本的な対策をとるべきであり、追加の増額補正予算を求めました。

また、保健師・看護師の人員確保については、人材派遣会社を利用するものであり、これまでの市の職員削減方針の矛盾が表れています。10年前に保健所を集約化したことが、いま感染症対策のうえで大きな障害となっているのです。地域の医師からも「保健所と連携して対応することに困難が生じている」との声も聞かれます。現場の職員も窮地に立たされています。

ポストコロナへの教訓は、保健師等をはじめとする市職員を増員して公衆衛生の向上を図ること、保健所を行政区に戻して体制を立て直すことであると指摘しました。★

山科醍醐こどものひろば《子ども貧困対策事業》ZOOM 報告会に参加

報告会ではサポーターの方、元中学生の利用者からの報告もありました。

この事業は、生活保護のケースワーカーや、学校の先生などからの紹介で、現在、中学生を対象にした学習会「のびのび」として実施されています。大学生や社会人のサポーターがマンツーマンで学校の勉強を教えるだけでなく、お料理会や誕生日会なども催され、心が開ける居場所となっています。こうした信頼関係を築き、家庭の問題の相談を受けたり、経済支援、いじめ・不登校支援等につながっているということです。

「子どもの貧困対策事業を始めて10年、つながる家庭は増えたが、抱える問題

の深刻度も上がってきている。特に多子世帯が増え、家族構成も複雑。親が精神疾患で子どもの世話をする大人がいない。育児放棄や、ヤングケアラー(子ども自身が介護者となる)の実態も。17,8歳で一人暮らしを余儀なくされる例もある」「職員が変わっても、困ったらいつでも「ひろば、においで」という言葉を覚えていて訪ねて来てくれる。子どもが豊かに育つ環境の一つとして、これからもがんばっていきたい」という理事長の言葉が重く響きます。

サポーターの確保が大変、NPO法人として職員の維持も大変、ということも伝わってきました。行政がしっかり役割を果たすよう求めていきたいと思います。★



京都市の行財政審議会に抗議する 共産党市議団の三条河原町宣伝！

生活もお商売も苦しい折に、京都市が予算をつくるために、真っ先に住民サービスを削減しようとするのは許せません！ コロナ禍だからこそ、市民の暮らしを支える政治を！と訴えました。



コーコの
ママチャリ子育て日記

「すごいお笑い係」

四年生の息子くん、またまた面白い話をもって帰ってきてくれました……。

彼は、このたび、学級での係でなんと、冒頭の「すごいお笑い係」に就任したのだそうです。

なんだ、それ???

クラスのなかにどんな係が必要か？ 意見を出し合うなかで、お友達が「お笑い係」が必要だと思えます」と提案したそうです。その後、みんながやりたい係に手を挙げて係を決めたところ、提案者はお笑い係を希望せず、なんと息子くんだけが一人、手を挙げたため、即、決定。

かくして、毎週金曜日の終わりの会には、一人で自作お笑いネタでコントをしているらしいです。

息子くんは「みんな、いつも、笑ってくれるし」と、やりがいを感じているようですが、おおいにスベって「苦笑い」なのでは？ という話も……。

ウケてるかどうかは別として、きつとクラスを和ませてくれてはいるのでしょうか！

